

報道関係者各位

2026年5月11日

第6期中期経営計画(2026年度～2030年度)を策定 —がん事業とイノベーションで世界を牽引—

第一三共株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 兼 CEO:奥澤 宏幸、以下「当社」)は、2035年ビジョンおよび同ビジョン実現に向けた第6期中期経営計画(2026年度～2030年度、以下「第6期中計」)を新たに策定しましたので、お知らせいたします。

1. 2035年ビジョン

当社は、2035年ビジョンとして「**Trusted healthcare innovator transforming the lives of people through our science and technology**」を掲げます。

2. 第6期中計の概要

当社は、第5期中期経営計画期間(2021年度～2025年度)において、がん事業の躍進により、売上収益、コア営業利益ともに大きく成長し、2025年度目標として掲げた「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」へのトランスフォーメーションを達成したものと評価しております。

今後は、2035年ビジョンの実現に向けて、第6期中計では、以下の戦略を通じて利益創出力を高め、研究開発・設備投資などの成長投資と株主還元の充実を両立します。

<戦略>

■ 2035年までにがん領域でグローバルトップ5カンパニーへ

- 当社独自のDXd ADC*1技術の強みを活かし、複数の製品および適応症を遅滞なく上市し、2030年度には、がん領域売上収益2兆3千億円超を目指します。
- 医療従事者への付加価値の高い情報提供等を通じて、年間70万人以上のがん患者さんに当社医薬品を提供してまいります。
- 自社単独での開発・商業化を可能とするケイパビリティを構築し、持続的な成長を実現します。

■ 新たなBreakthrough Generating Technologies による継続的なイノベーションの創出

- 当社の長期的な成長を見据え、2030年度までにDXd ADC技術に続く複数のBreakthrough Generating Technologies*2(BGTs)を見出します。当社の中核技術となるBGTsに基づき、革新的で確度の高い新薬を長期的に複数創出してまいります。

■ Operational Excellenceによる利益創出力の強化

- AI活用を含むデジタルトランスフォーメーションによる業務効率化および戦略的な人材配置により、生産性を高めます。全社でOperational Excellenceを実行することで、コスト構造を見直し、利益創出力を強化します。

■ 信頼されるパートナーとしての企業価値向上

- 多様なステークホルダーの期待に応え、信頼できるパートナーであり続けることが持続可能な社会への貢献につながります。全社でPatient Centricityを醸成し、患者さんに貢献できる医薬品を提供するとともに、高い倫理観に基づく医療コミュニティへの貢献を通して患者さんとそのご家族に確かな安心と安全を届けてまいります。さらに、バリューチェーン全体での環境負荷の軽減に取り組みます。

当社の代表取締役社長 兼 CEOの奥澤 宏幸は、「第6期中計は、2035年ビジョンの実現に向けた次の成長ステージに進む重要な経営計画です。当社の強みであるサイエンス & テクノロジーを活かし、DXd ADC技術を基盤とした製品の価値最大化とともに、新たなBGTsを見出します。当社は、長期視点の価値創造と持続可能な社会への貢献を志し、一日でも早く革新的な医薬品を患者さんに届けてまいります。」と述べています。

3. 2030年度の計数目標

2035年ビジョン実現に向けて、以下を2030年度計数目標として設定します。

売上収益	3 兆円 以上
営業利益	6,000 億円 以上
EPS ^{*3}	260 円 以上
調整後DOE ^{*4} (各年度)	10.0 % 以上

※累進配当を実施

4. 第6期中計の内容

第6期中計の内容については、当社ウェブサイト

(<https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/library/materials/>)をご覧ください。

以上

*1 抗体薬物複合体(ADC)とは、抗体と薬物(低分子化合物)を適切なリンカーを介して結合させた薬剤で、がん細胞に発現している標的因子に結合する抗体を介して薬物をがん細胞へ直接届けることで、薬物の全身曝露を抑えつつがん細胞への攻撃力を高めています。第一三共独自のDXd ADC技術は、がん細胞表面に発現する特定の抗原を標的とした抗体と、複数のトポイソメラーゼ I 阻害剤(DXd)をリンカーを介して結合させ、がん細胞の内部へDXdを届けます。

*2 Breakthrough Generating Technologies (BGTs)とは、より革新的な医薬品を患者さんに迅速に届けるための当社独自の創薬技術で、一つの技術で複数の新薬を創出するプラットフォーム技術です。

*3 EPS(1株当たり純利益) = 当期純利益 ÷ 発行済株式数

*4 DOE(株主資本配当率) = 配当総額 ÷ 株主資本(親会社の所有者に帰属する持分)

本件に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社 広報部

TEL: 03-6225-1126